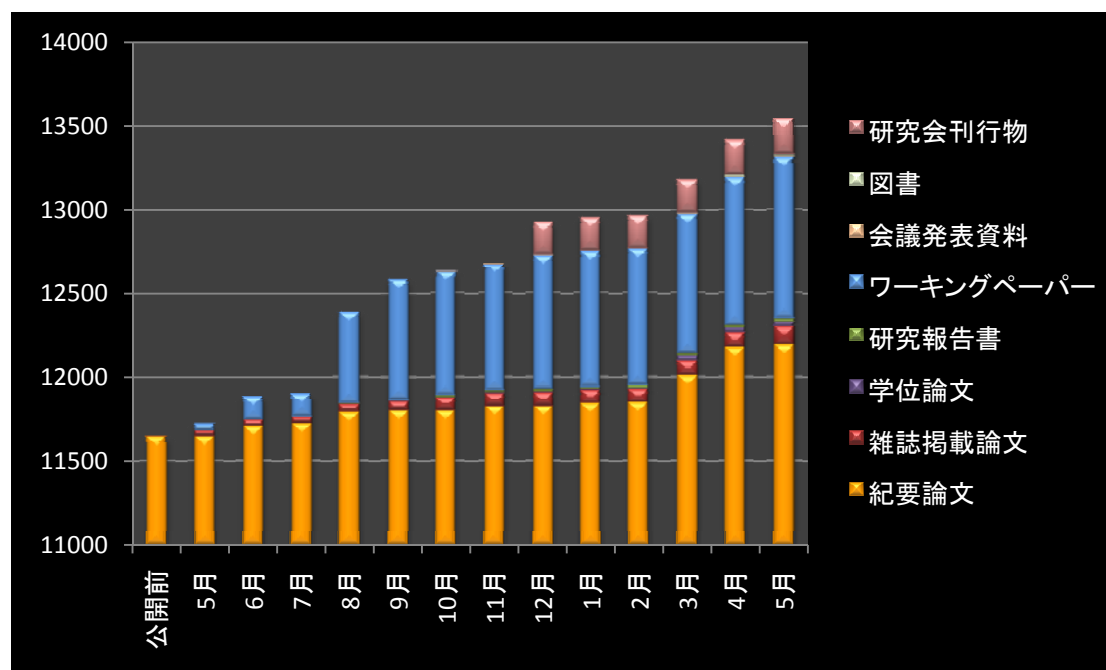


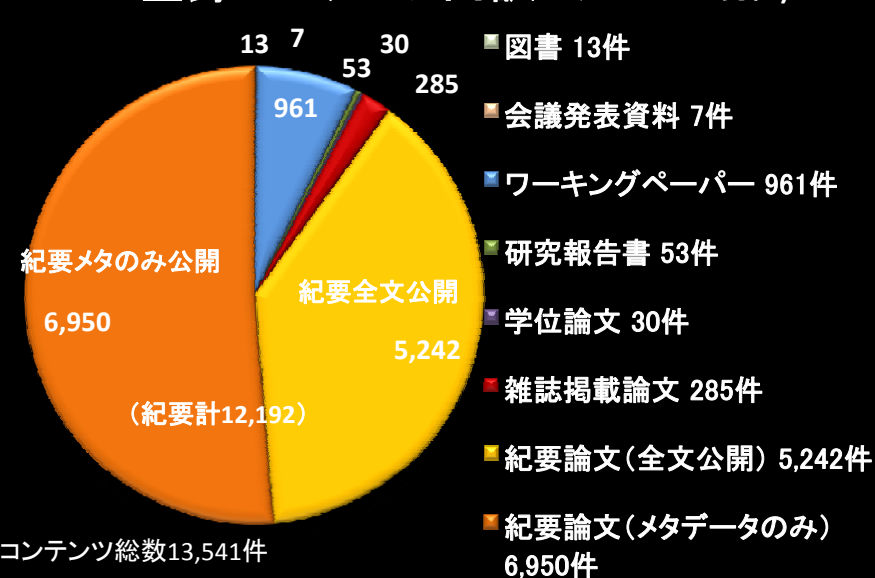
数字で見るこの1年

Research & Education Resources



公開時は紀要論文が大半でしたが、コンテンツ収集の仕組みを作ることによって、雑誌掲載論文、学位論文、研究報告書、ワーキングペーパー、学会発表資料、図書、研究会刊行物など多様なコンテンツが登録されるようになりました。

登録コンテンツ内訳 (2008.5.30現在)



また、既存のシステムから移行したデータのうち、本文未公開であった紀要論文について、著者の連絡先を調査し、著作権処理を進めたことによって、紀要の本文公開率が19%から43%に上昇しました。

継続的なコンテンツ収集の基盤づくり

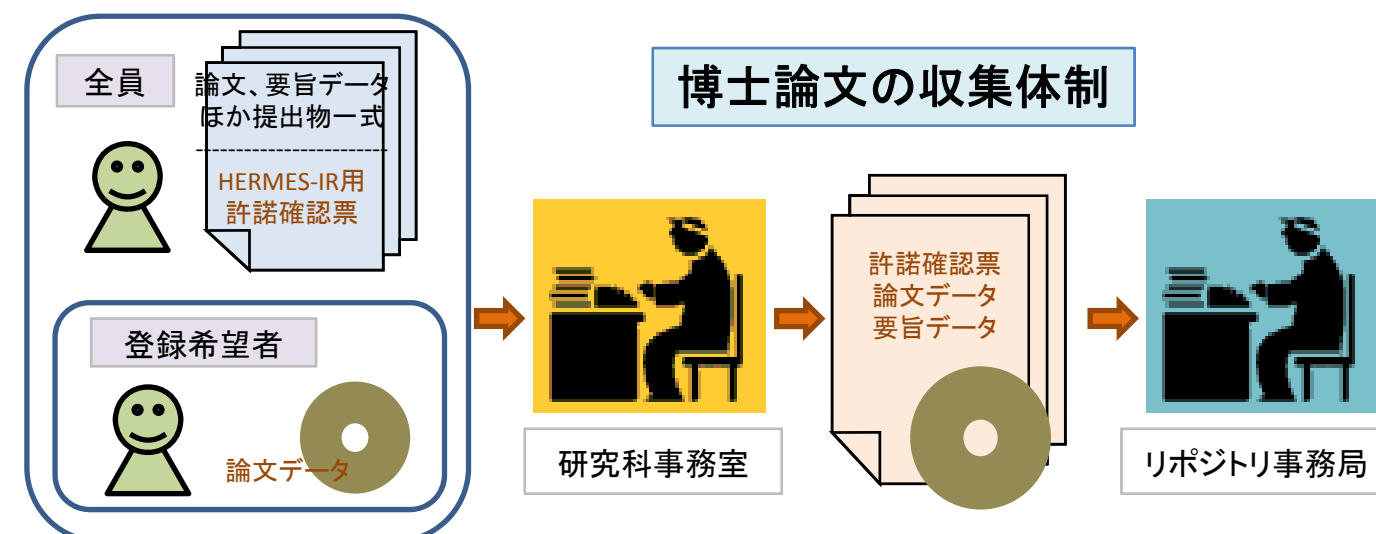
◆ 博士論文の収集体制の構築
研究科の窓口で全員の許諾意思の確認とデジタルデータを受領する体制を構築しました。

◆ 学内助成金の制度改革
学内助成金による研究成果を、可能な限りHERMES-IRに登録することを義務付けました。

全学的な支援体制の構築

◆ 新規刊行紀要の包括公開許諾
一部の紀要を除き、包括的に許諾を受け、全点登録する仕組みを作りました。

◆ ワーキングペーパーの収集
経済研究所等のWPについて全点登録する仕組みを作りました。各研究科・COE等の各種プロジェクトについても交渉中です。



研究グループと連携した 収集と利用促進活動

地中海研究会

くにたち人類学会

「書物・出版と社会
変容」研究会

COEプロジェクト

研究成果
提供

コンテンツの利用

福田徳三研究会
HERMES-IRに登録さ
れた資料を用いた
研究を促進

研究成果提供

電子化資料
の利用

発表された研究成果は「Research & Education Resources」へ登録することによって、HERMES-IRのコンテンツの充実をはかります。HERMES-IRの2つの機能を有機的に結び付けることによって、機関リポジトリが“情報の集積庫”の役割にとどまらず、研究の素材と発表の場を提供する“研究の舞台”になることを目指します。

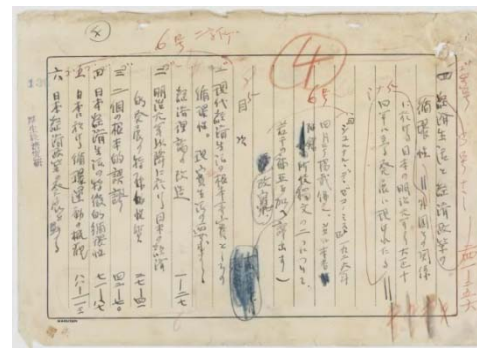
Special
Collections

手稿など非図書資料

貴重書

本学で教鞭をとった著名研究者の関係資料として、福田徳三関係資料、三浦新七講義原稿・手稿類および古川栄一講義ノート類を電子化し公開しました。

福田徳三(1874-1930)は、東京商科大学で教鞭をとり、本学の学問伝統の礎を築きました。
「Special Collections」では、福田徳三関係資料(下写真)の電子化と公開に取り組んでいます。



広報活動

■ 大学院生向けガイダンス開催 (11月19日/21日) 「論文投稿・博士論文提出のための著作権処理 & HERMES-IR入門」

- ★ あなたの論文は誰のもの？ — 論文投稿から掲載まで
- ★ 忘れてませんか？ 著作権処理 — 学位請求の前にすべきこと
- ★ あなたの論文を多くの人に読んでもらおう！

■ 広報誌への掲載 & クリアホルダーの作成 図書館広報誌、如水会報、一橋大学基金ニュース、英語ニューズレターに記事を掲載しました。

■ リポジトリ・シンポジウム開催 (2月21日) 「ウェブ時代と学術コミュニケーションのゆくえ ～人文・社会科学系研究成果の情報発信の新しい可能性～」

2/21
開催

一橋大学機関リポジトリ・シンポジウム

ウェブ時代と学術コミュニケーションのゆくえ
～人文・社会科学系研究成果の情報発信の新しい可能性～



人文・社会科学分野ではウェブの活用度には未だ個人差があるが、近年のウェブ環境の進展によってあらゆる分野の学術コミュニケーションが変容しつつある。個人ホームページからの情報発信と相互コミュニケーションはもとより、論文がネット上で公開されることで雑誌編集のあり方にまでも変化が生じている。このようなウェブ時代の新たな情報発信ツールとして機関リポジトリが登場した。本シンポジウムでは、ホームページからの発信と機関リポジトリからの発信、機関リポジトリの情報発信機能とアーカイブ機能など、さまざまな角度から学術コミュニケーションの新しい可能性を議論し、登録者にとって魅力的なリポジトリづくりを目指す。

挨拶：西村可明(研究担当副学長)

基調講演：「機関リポジトリの魅力」
斎藤修(一橋大学機関リポジトリ統括責任者・附属図書館長)

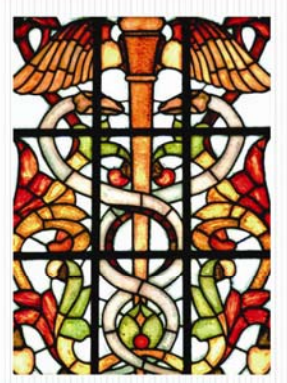
報告1：「AKAMAC E-textの現在とインターネット時代の学術コミュニケーション」
赤間道夫(愛媛大学法文学部教授、経済思想史)

2：「雑誌編集のあらたな可能性
～COE研究成果の発信を通じて～」
角田季美枝(千葉大学大学院人文社会科学部研究科公共センターリサーチ・アシスタント、環境政策・自治体政策)

3：「研究成果の進展段階に応じた博士論文の公開」
岡室博之(一橋大学経済学研究科准教授、産業組織論)

4：「HERMES-IRの現状と課題」
高橋葉奈子(一橋大学機関リポジトリ事務局)

パネル・ディスカッション



日 程：2008年2月21日(木) 13:10～16:40 (12:50 開場)

場 所：一橋大学国立キャンパス(東) マーキュリータワー 1階 3102教室

主 催：一橋大学機関リポジトリ運営会議
事務局：情報推進課コンテンツ担当 contents@www.lib.hit-u.ac.jp
※参加自由(学外の方は事前にメールでお申し込み下さい)
一橋大学機関リポジトリ HERMES-IR <http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/>

利用の促進

図書館との連携

図書館のオンライン蔵書目録からのリンクを形成し、図書館利用者がHERMES-IRを利用しやすい環境を整えました。

外部機関との連携

- 国立国会図書館 Dnavi(データベース・ナビゲーション・サービス)
- ROAR(Registry of Open Access Repositories)
- 国立情報学研究所 JuNii+(機関リポジトリポータル)試験公開版
- 国立国会図書館 PORTA(デジタルアーカイブポータル)

システムの機能改善

紀要データの活用を図ってもらうために
→ 雑誌の目次順表示機能を追加

Google等から直接本文PDFを閲覧するケースに対応するために
→ カバーページの表示機能を追加

論文提供の動機付けに
→ アクセス数のメール通知サービスを開始
(アイテム閲覧数/ダウンロード数を通知)

HERMES-IRを知ってもらうために
→ 統計情報を公開
(収録コンテンツ数・アクセス数・高頻度閲覧文献リスト)



2007年度の活動

2007年4月
・第1回機関リポジトリ運営会議

2007年5月
・HERMES-IR 運用開始

2007年6月
・学内助成金の制度改正

2007年7月
・雑誌の目次順表示機能の追加

2007年8月
・JuNii+試験公開版へメタデータ提供
・Dnaviに登録

2007年9月
・図書館オンライン蔵書目録との連携

2007年11月
・大学院生向けガイダンスを開講
・第2回機関リポジトリ運営会議

2007年12月
・本文ファイルにカバーページ付与
・英語版の案内ページを公開

2008年1月
・博士論文収集のための制度開始

2008年2月
・シンポジウムの開催
・アクセス数のメール配信を開始
・統計情報を公開

2008年3月
・ROARに登録
・PORTAへメタデータを提供
・第3回機関リポジトリ運営会議